

チャレンジ！！オープンガバナンス 2019 市民／学生応募用紙

地域課題タイトル (注1)	No.	タイトル	自治体名
	11_1/1_1	郷土に愛着をもって共に創り上げる多文化共生のまち	越前市
アイデア名(注2) (公開)	多文化交流を実現するイベント『でっかいかるたで大合戦！』		

(注1) 地域課題タイトルは、COG2019 サイトの中に記載してあるエントリー自治体(連合)が掲げる地域課題を記入してください。

(注2) アイデア名は各チームが応募されるアイデアにつけるものです。アイデアにふさわしい名前を付けてください。

1. 応募者情報

チーム名(公開)	チームでっかいかるた		
チーム属性(公開)	<input type="radio"/> 1. 市民によるチーム <input checked="" type="radio"/> 2. 学生によるチーム <input type="radio"/> 3. 市民、学生の混成によるチーム		
メンバー数(公開)	7名		
代表者情報	大谷結衣		
メンバー情報	氏名(公開)	村上友麻	
		有塚美奈	
		谷口美里	
		野坂汐里	
		宮本祐輝	
		家根田希	

(注意書き) ※ 必ず応募前にご一読ください。

<応募の際のファイル名と送付先>

1. 応募の際は、ファイル名を COG2019_応募用紙_具体的チーム名_該当自治体名にして、以下まで送付してください。東京大学公共政策大学院の COG2019 サイトにある応募受付欄からもアクセスできます。 admin_padit_cog2019@pp.u-tokyo.ac.jp

<応募内容の公開>

2. アイデア名、チーム名、チーム属性、チームメンバー数、代表者と公開に同意したメンバー氏名、「アイデアの説明」は公開されます。
3. 公開条件について：
「アイデアの説明」でご記入いただく内容は、クリエイティブ・コモンズの CC BY (表示) 4.0 国際ライセンスで、公開します。ただし、申請者からの要請がある場合には、CC BY-NC (表示-非営利) 4.0 国際ライセンスで公開しますので、申請の際にその旨をお知らせください。いずれの場合もクレジットの付与対象は応募したチームの名称とします。
(具体的なライセンスの条件につきましては、<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/legalcode.ja>、および、<https://creativecommons.org/licenses/by-nc/4.0/legalcode.ja> をご参照ください。また、クリエイティブ・コモンズの解説もあります。<https://creativecommons.jp/licenses/>)
4. 上記の公開は、内容を確認した上で行います。(例えば公序良俗に違反するもの、剽窃があるものなどは公表いたしません)
5. この応募内容のうち、「3. 自治体との連携」は、非公開です。なお、内容に優れ今後の参考になりうると判断したものは、公開審査後アドバイスの段階で相談の上公開することがあります。

<知的所有権等の取扱い>

6. 「アイデアの説明」中に、応募したチームで作成・撮影したものではない文章、写真、図画等を使用する場合、その知的所有権を侵害していないことを確認してください。具体的には、法令に従った引用をするか、知的所有権者の許諾を取得し、その旨を注として記載してください。「自治体との連携」中も同様でお願いします。
7. 「アイデアの説明」中に、人が写りこんでいる写真を使用している場合、使用している写真に写りこんでいる人の肖像権またはプライバシー

ーを侵害していないことを確認してください。

<チームメンバー名簿>

チームメンバーに関する情報を最終ページに記載して提出してください。（2. の扱いによる代表者氏名を除き、他のメンバーに関する情報は本人の同意があるものを除き COG 事務局からは非公開です。詳細は最終ページをご覧ください。）

2. アイデアの説明（公開）

(1) アイデアの内容、(2) アイデアの理由、(3) 実現までの流れ、の三項目に分けて記入してください。

必要に応じて図表を入れていただいて結構です。

(1) アイデアの内容（公開）

アイデアは、課題解決のために、何をやる社会的なサービス（活動）なのか、をわかりやすく示してください。これが将来実現した場合、魅力的で新規性があり、実践したり、活用したくなる、そしてその結果として、課題が解決される、そんなワクワク感のあるアイデアを期待します。2 ページ以内でご記入ください。

<応募チームとして解決したい課題>

(1) ブラジル人の移住者が増えて、言葉や文化の違いに悩む子どもが増加している

越前市内の企業による旺盛な求人を背景に外国人市民が急増し、2019 年 1 月現在で人口に占める割合は 5.2%にまで上っている。中でもブラジル人の割合が高く、それに伴って地元の小学校に通うブラジル人児童も年々増加しており、他の児童とうまくコミュニケーションがとれないという問題が起こっている。その原因としては「日本語を全く理解できない」「言葉や文化の違いに悩んでいる」という児童がいることが挙げられる。

(2) ブラジル人の移住者と地元の人々が交流する場が少ない

増加傾向にあるブラジル人移住者と従来から越前市に住む人々の交流する場が少なく、お互いを深く理解できない状況になっている。またブラジル人の児童は、学校などで地元の子供たちと交流する機会があるが、その親である大人たちは勤務先で交流する機会はあるが「日本語がよく分からない」「分かって交流する機会が少ない」という理由により、地域での交流が生まれていない状況にある。

(3) 若者が他県に流出している

就職先に地元を選ばないことなどが原因で、地元に住む日本人の若者は他県に流出してしまっている。そのため高齢化が進み、後継者不足に悩む人々が増えている。

<解決アイデアの内容>

アイデアの概要

地元愛を深め、多文化交流を実現するイベント『でっかいかるたで大合戦！』

実現したいこと

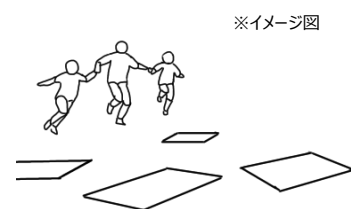
- 外国人の子どもたちが日本語や地元の文化に親しむ環境づくり
- 地域コミュニティにおける日本人と外国人の交流活性化
- 全市民の郷土愛を深め、若者人口減に歯止めをかける

『でっかいかるたで大合戦！』とは

抱えるほどの大きなかるたを、走り回って取り合う！

～基本ルール～

3 人 1 チームのチーム戦。フィールドの真ん中にランダムに配置された大きな札を、スタート地点から 2 チームが走って取りに行き、3 枚先取した方の勝ち。選手は 3 人とも手を繋ぎ、両端のどちらかの選手が手で札を取ったら得点とする。



～なぜ「かるた」なのか？～

① かるたの語源はポルトガル

かるたの語源はポルトガル語の「carta」に由来する。16 世紀半ば頃に伝わり、日本古来の伝統文化である「あわせ遊び」と融合して日本に定着した。かるたは異文化コミュニケーションの象徴と言える。

→ かるたは戦国時代から国際交流のツールだった！

② かるた王国越前市

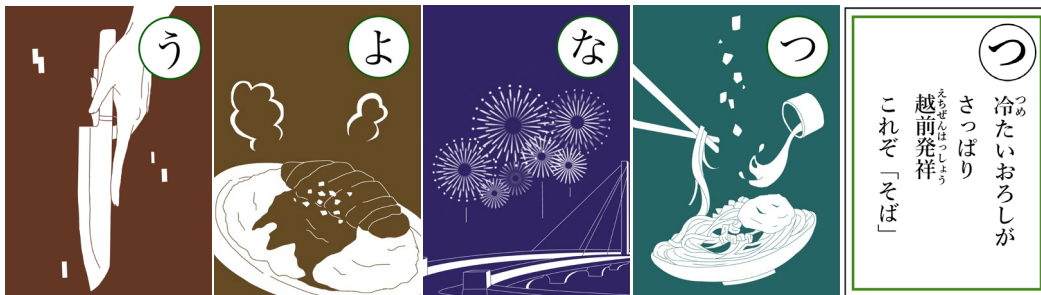
越前市は「かるた王国」と呼ばれるほど競技かるたが盛んで、各地域の公民館では世代を交えてかるたに親しむ様子が見られる。しかし、これまで地元になんだ「越前かるた」は存在しなかった。

→ **かるたが大好きな越前市民なら「やってみよう！」と思うはず！**

③ 遊びを通して楽しく覚える

一般的なかるとはことわざや歴史モチーフとしたものが多い。昔はかるたで遊びながらこれらを覚えた人も多いのではないだろうか。このでっかいかるたは越前市の食文化、伝統工芸品、おすすめスポットなどを絵札で分かりやすく表現しているので、地元の素晴らしさを覚えてもらい「移住者は新発見」「先住者は再発見」できる強力なツールとなる。

→ **知ってもらえれば、みんなもっと越前市を好きになる！**



かるたの例)

・打刃物 700年の伝統と磨き抜かれた匠の技

・洋食の最強コラボ！なぞのB級グルメ ボルガライス ・夏のよる夜 村国山と 大輪の花火

～なぜ「でっかい」のか～

かるたは「畳上の格闘技」と呼ばれるほど身体を動かす競技であり、実はスポーツの要素を含んでいる。かるたを「でっかく」することでそれをさらに拡張し、子どもたちに親しまれるように「でっかいかるた」とネーミングした。同様の競技は「ジャンボかるた」「スポーツかるた」などという呼び名ですでに存在するが、「チームプレイを前提としたルール設定」「音響設備を用いた臨場感あふれる生実況」「使われなくなった浴衣をリメイクしたユニフォーム」「ブレイクタイムに各国の郷土菓子をふるまう」といったエンターテインメント化などで**独自性**を出す。

～制作のポイント～

かるた

越前市内の企業から頂いた越前和紙の廃材を貼り付けて制作

・・・越前市の伝統工芸品である越前和紙を使用

→ **ただ新しく作るだけでなく、越前市に寄り添ったものに**

ユニフォーム

地域の方から提供していただいた浴衣をリメイクし、和服の要素を残しつつ動きやすい法被を制作

・・・かるたという日本文化に一番ぴったりな和服を採用

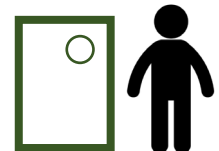
→ **ブラジルの人に和服を体験してもらい日本文化を身近に感じてもらう**

ハーフタイム

福井の和菓子「水ようかん」とブラジルの洋菓子「ブリガデイロ」を手作りで用意し配布

・・・ブラジル人の方には福井の味を、越前市の人にはブラジルの味に触れてもらう

→ **お互いの食文化に触れることで理解を深められる**



※かるたの大きさのイメージ



ブラジルの洋菓子ブリガデイロ

CC BY-SA 2.0 <https://www.flickr.com/photos/mayra/31394483/>

まとめ

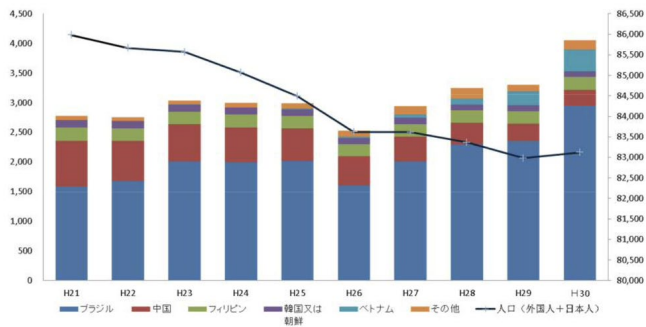
「かるた」で、地元愛を深め、多文化交流を実現したい！

(2) アイデアの理由（公開）

このアイデアを提案する理由について、それをサポートするデータを根拠として示しつつ2ページ以内で説明してください。ここではアイデアの必要性、効果を確認します。データとは、統計類の数値データやアンケート・インタビューなどの資料や関連の計画、既存の施策などの定性データのことを総称します。データは出所を明らかにしてください。

1. 越前市の外国人市民が増えている（特にブラジル人）

【資料2】越前市の外国人市民の推移 単位：人



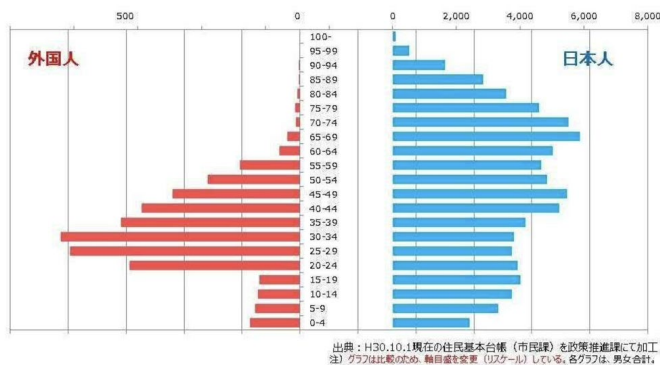
*各年のデータは、4月1日時点

資料：市民課 人口世帯数

越前市, 2019, 『越前市多文化共生推進プラン』, p. 15 より引用

2. 外国人の子供（5歳～19歳）が一定数いる

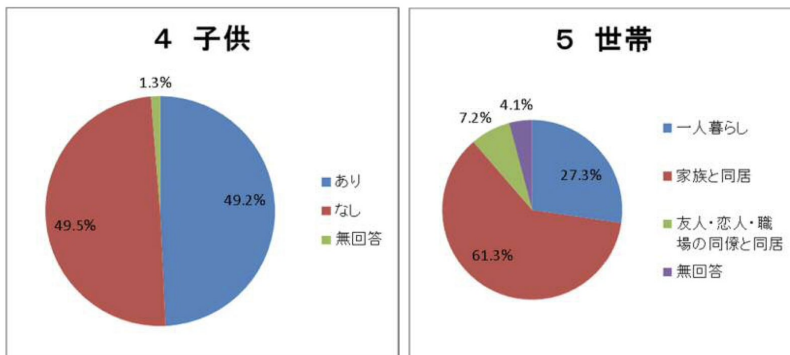
【資料4】本市に居住する日本人と外国人の年齢別人口構成 単位：人、歳



出典：H30.10.1現在の住民基本台帳（市民課）を政策推進課にて加工
注）グラフは比較のため、軸回数を変更（リスケール）している。各グラフは、男女合計。

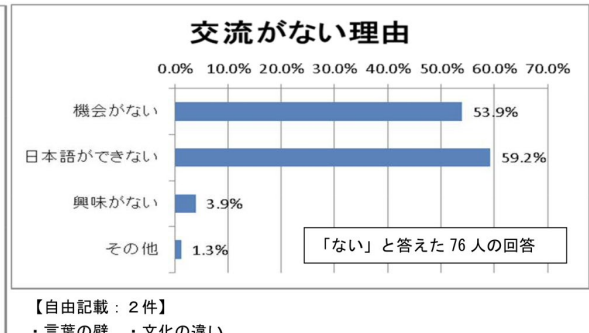
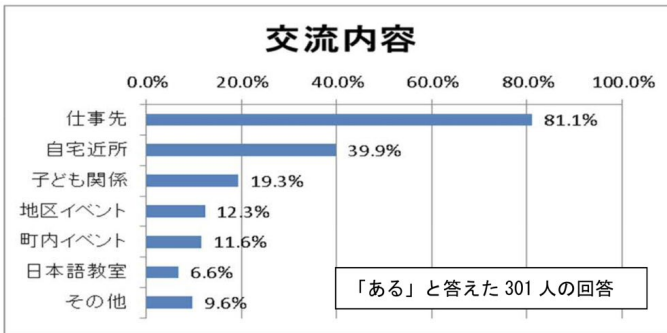
越前市, 2019, 『越前市多文化共生推進プラン』, p. 16 より引用

3. ブラジル人の世帯について、家族と同居していて、子どもがいる世帯が多い



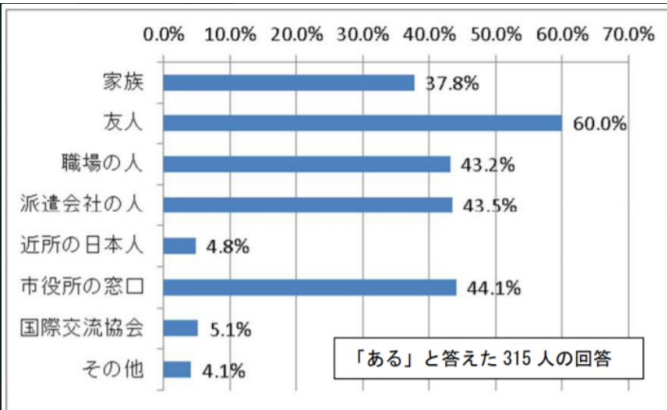
越前市, 2019, 『越前市多文化共生推進プラン』, pp. 57-58 より引用

4. 日本人とブラジル人の間では子ども関係の交流が少なく、機会がないため交流が生まれていない



越前市, 2019, 『越前市多文化共生推進プラン』, p. 61 より引用

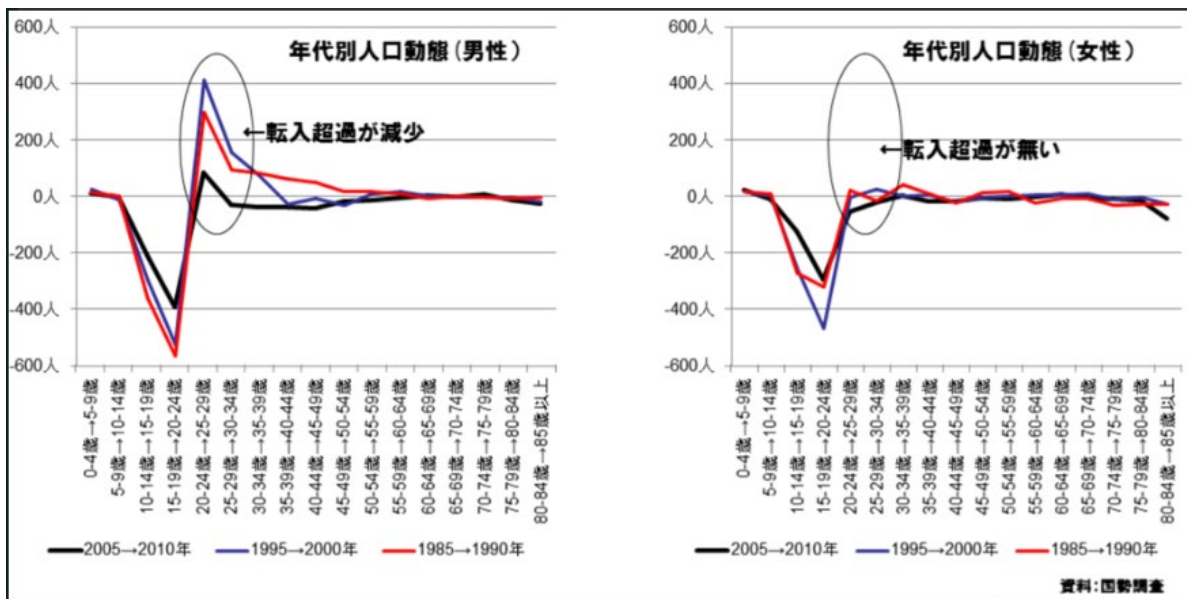
5. 相談したいことがあっても、近所の日本人にする人は少ない



【自由記載：5件（以下抜粋）】
・学校 ・JA共済保険 ・インターネット掲示板

越前市, 2019, 『越前市多文化共生推進プラン』, p. 60 より引用

6. 若い世代が市外に流出している



越前市, 2015, 『越前市総合戦略』, p. 10 より引用

(3) アイデア実現までの流れ（公開）

アイデアを実現する主体、アイデアの実現に必要な資源（ヒト、モノ、カネ）の大まかな規模とその現実的な調達方法、アイデアの実現にいたる時間軸を含むプロセス、実現の制度的制約がある場合にはその解決策等、アイデア実現までの大まかな流れについて、2 ページ以内でご記入ください。ここでは実現可能性を確認します。

プレイベントを実施

2019年10月22日（火・祝）に越前市内の公園でプレイベントを行い、アイデアを試行した。

	2019年						
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
企画立案							
資金調達（補助金への応募、プレゼンテーション）							
ルールの作成、かるた・ユニフォームの制作							
チラシ・ホームページによる広告・募集							
事前準備（会場の手配、お菓子制作など）							
プレイベント実施							

図1 プレイベントのスケジュール（2019年4月～10月）

大会概要

大会名	＼チーム対抗／でっかいかるたで大合戦！
日時	2019年10月22日（火・祝）13:00-16:00
場所	武生中央公園だるまちゃん広場（越前市高瀬2）
応募チーム	3人組8チーム（24名）を公募 → 10チーム30名が参加

募集チラシ



運営（ヒト）

実行委員	仁愛大学吉村ゼミ+ 学生有志（指導教員1名、学生11名）
協力	越前市市民協働課、商業・観光振興課（職員各1名）

場所と物（モノ・カネ）

場所と物	詳細	金額
会場	武生中央公園だるまちゃん広場 越前市商業・観光振興課の協力により、同会場で行われている越前市最大のイベント「たけふ菊人形」の開催中に実施	0円
会場※雨天時の予備	越前市文化センター小ホール ※当日晴れたためキャンセル	5,750円
大会本部	テント、机、いす、コーン ※越前市役所と地元の公民館から借用	0円
かるた	B1サイズを20枚制作 制作のため、スプレーのりやテープを使用（26,000円） 基盤となるダンボールや装飾に用いた越前和紙は廃材を利用（0円） 大判プリントは大学内のプリンターを利用（0円）	10,500円
ユニフォーム	越前市民の方から提供いただいた浴衣をリメイク 25着	0円
景品	大会の上位入賞チームに越前市産の新米などを贈呈	8,700円
お菓子	日本の菓子「水ようかん」とブラジルの菓子「ブリガデイロ」を手作りで用意 ※材料費	5,700円
チラシ	越前市市民協働課の協力で市内の小学校に配布 印刷料 A4サイズ1,000枚	12,300円
ホームページ	チラシのQRコードから公式ホームページで参加申し込みできるようにした https://mt77j.github.io/karuta/ ※Google翻訳によるポルトガル語ページを含む	0円

参加者の感想

「走ってカルタを取るのが面白かった。」「家族で楽しい時間を過ごせました。」「たくさん走って疲れたけど、カルタを探して家族が協力して走ってとても楽しかったです。」

当日の様子



やってみてわかったこと・今後の課題

約 4 万円で実施できた → 各地区での自主開催が可能な仕組みづくり
 ブラジル人の参加がなかった → まずは繋がりを作り積極的な呼びかけが必要
 途中で帰ってしまったチームがあった → 最後まで退屈させないプランが必要
 賞品に魅力が足りなかった → すべて越前市にちなんだ賞品に

プレイベント以降の展開アイデア

	2020 年					
	2月	4月	6月	8月	10月	12月
協賛募集						
ルールの改善						
備品準備						
ホームページによる告知・参加募集						
2 回目のイベントを実施						
定着化						

図 2 プレイベント以降の行程 (2020 年～)

運営 (ヒト) ※赤い太字は改善点・企画のポイント

実行委員	仁愛大学吉村ゼミ+学生 有志+ 越前市民	市民の方々にも協力を求め、イベント運営を大学生と越前市民が協力して行えるようにする。
協力	越前国際交流協会	外国人へのイベント参加推進に協力いただく。※ ブラジル人参加のための改善
協賛	越前市内の企業	協賛金は会場レンタルや景品、各地区に配布するかるた材料費等の経費に当てる。イベント会場に企業名のフラッグ掲示や企業 PR ブースの設置も。

場所と物 (モノ・カネ) ※赤い太字は改善点・企画のポイント

場所と物	詳細	予算
会場	武生中央公園総合体育館 使用減免適用 100%の場合 ※ 天候に左右されない ※ 観覧席から見ても楽しめる ※ 音響や照明設備が整っているため臨場感が高まり、エンタメ感が UP	0 円
かるた	B1 サイズ 20 枚制作を 8 セット制作 ※ 各地区に配布する練習用を含む ※ 各地区に訪問してワークショップ形式で子どもたちと一緒に制作	50,000 円
景品	大会の上位入賞チームに、越前市にちなんだ 豪華景品 を贈呈	20,000 円
お菓子	参加者が持ち寄る	0 円

※ユニフォーム、ホームページはプレイベントで使用したものを継続利用する。

